

事業名：環境に適した漁法開発試験

期 間：H27～H29 年度

予算額：3,522 千円（単費）

担 当：増殖推進室（前田 啓介）

目 的：

1998 年以降、サワラ東シナ海系群の資源増大に伴い、鳥取県のサワラの漁獲量は増加し、2014 年には過去最高の 654 トン、3.9 億円の水揚げを記録した。本調査では、このサワラを付加価値が高く漁獲できる「釣り」による漁獲量増加を目的に、日本海北部で実績のある灯火を用いた夜間釣りが本県でも導入可能か、試験操業により検証した。

成果の要約：

1) 調査内容

(1) 先進地視察

2015 年 10 月に、鳥取県西部の漁業者 5 名とともに新潟漁業協同組合山北支所に赴き、サワラ夜間釣りを操業している漁船 1 隻を用船し、実際の操業を視察しながら、漁法の勉強を行った。

(2) 試験操業

鳥取県栽培漁業センター所有の調査船「おしどり」と赤碕町漁業協同組合で主に一本釣りを操業している漁船を用船し、上記の視察をもとに作成したサワラ夜間釣り仕掛けで、試験操業を実施した（表 1）。

なお、12 月 18 日の試験操業は、水中灯の効果把握試験として漁船 2 隻を同時に用船し、同一水深で

試験操業することで実施した。

2) 結果の概要

表 1 のとおり、付加価値の高いサワラ銘柄サイズのサワラを 9 回の試験操業中 5 回で釣獲することができた。試験操業の中で、鳥取県海面漁業調整規則の定められる灯火 15kw 以下で釣獲可能であり、メタルハライド集魚灯でなくとも、LED 集魚灯でも釣獲可能であることが判明した。

また、日中操業する曳縄釣りでサワラが漁獲される 10-12 月に夜間釣りでも多獲できる可能性が示唆された。ただ、曳縄釣りのように漁場探索しながら操業できないため、漁場選択をどうすべきかという点に課題が残った。さらに、曳縄釣りで餌や水深でサワラ銘柄を選択的に漁獲できるのに対し、夜間釣りでは選択的にサワラ銘柄を漁獲することはできないという課題も見つかった。

また、12 月 18 日の水中灯の効果把握試験では、サゴシ銘柄で水中灯の効果把握した。ただ、操業水深が 37m と浅く、漁船装備のメタルハライド集魚灯の集魚効果が水深 35m 程度までであることを考慮すると、さらに深い水深での比較試験による再検証が必要と考えられた。

成果の活用：

・試験操業結果等を資料にまとめ、漁協、漁業者等に説明を行った。

表 1 サワラ夜間釣り試験操業の結果

調査日	使用船舶	漁場（水深）	釣果	備考
2016/7/26	赤碕町漁協所属A丸	赤碕沖（58-63m）	0尾	
2016/8/25	県調査船おしどり	赤碕沖（60m）	サゴシ6尾	
2016/9/27	県調査船おしどり	淀江沖（40m）	サゴシ44尾、マサバ2尾、カマス2尾	
2016/10/13	県調査船おしどり	赤碕沖（38,43m）	サゴシ1尾、ハマチ2尾、カマス2尾	
2016/10/25	県調査船おしどり	淀江沖（20-25m）	サワラ1尾（FL79cm）、サゴシ2尾、ヒラメ1尾 ハマチ1尾、マアジ6尾、マサバ30尾	
2016/11/14	県調査船おしどり	由良川沖（67m）	サワラ1尾（FL74cm）、サゴシ2尾	
2016/12/8	赤碕町漁協所属A丸	赤碕沖（43,50m）	サワラ1尾（FL75cm）、サゴシ3尾、マアジ2尾 マサバ1尾、マルソウダガツオ9尾 シロサバフグ1尾	
2016/12/18	赤碕町漁協所属A丸	赤碕沖（37m）	サワラ7尾（FL65-92cm）、サゴシ58尾	水中灯あり
2016/12/18	赤碕町漁協所属B丸	赤碕沖（37m）	サワラ8尾（FL60-75cm）、サゴシ38尾	水中灯なし

注）サワラ銘柄は尾叉長 60cm 以上として、尾叉長 60cm 未満はサゴシ銘柄とした